2011年５月１日

「さまざまな試練に会うとき」ヤコブ１：１～４

ヤコブの手紙：

①公同書簡＝宛先が一地区の教会ではなく、広範囲の教会。

②著　者　：主の兄弟ヤコブ。

③執筆年代：AD（主の年）４５～４８年頃。

④執筆場所：エルサレム。執筆事情：国外に散って試練に会っていたユダヤ人キリスト者への励まし、信仰があれば行いはなくてもよいとする誤りを正し、舌や罪の欲望への戒めの為に書かれた。

⑤宛　先　：国外に散っていたユダヤ人キリスト者へ→：１。

Ⅰ「私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい」：２。

一方では大いに神ご自身を救いを喜び、他方では、悩み悲しむ。ここに、矛盾はない（Ⅰペテロ１：６～９）。私たちクリスチャンは、いつもこの二つの要素を含んでいる。試練と祝福、恵みは共存している。どちらか一方ではない。試練の中に恵みがあり、祝福、恵みの中に試練がある。悲嘆や悲しみは、クリスチャンが持つべき感情。神は人間を造り、大切な感情（大切なサイン、心の応答の現れ）を与えられた。感情的になり人を傷つけるのは良くない。しかし、悲しむべき時に悲しみ、喜ぶべき時に喜ぶ自分の感情を尊重することは大切な事。聖書に聖徒たちの弱さが正直に記されているのは大きな励まし。彼らは、悲しみ、悲嘆、孤独、失望を経験した。使徒パウロも悲しみを経験し、その事実を隠そうとしない。信仰の人パウロも生身の人間。私たち主を信じている者は、主が悲嘆を乗り越える力を与えて下さる恵みを知っているが、信仰生活の素晴らしさは、悲しみ、苦しみを感じ取った上で乗り越えていけるという点にある。神が与えられた感情を放棄してしまったわけではない。これは非常に大切な事。当時のクリスチャンの多くは迫害の中にあった。「確かに、キリスト・イエスに会って敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受けます」（Ⅱテモ３：１２）。「旅人であり寄留者であるあなたがたは…異邦人の中にあって、りっぱにふるまいなさい。そうすれば、彼らは、何かのことであなたがたを悪人呼ばわりしても、あなたがたのそのりっぱな行いを見て、おとずれの日に神をほめたたえるようになります」（Ⅰペテロ２：１１，１２）。主の生涯を見よう。悪が何一つなく、口に偽りがなかった。病人をいやし、愛を行い、みことばを宣べ伝えることに生涯を費やされた。その主は、ひどい迫害を受けられた。不当な苦しみ味わわれた主が今、私たちと共におられ、私たちへの迫害、苦しみを理解し支えて下さる。家族、知人、友人、人から誤解されることは非常につらい事、耐え難いもの。パウロは絶え間なくこんなことを体験していた。「デマスは今の世を愛し、私を捨てて行った」（Ⅱテモ４：１０）と述べた時のつらさは、いかばかりか。たった一人で試練に立ち向かう状態。あてにできると思っていた人々が突然離れ去って行き、一人残された。時として私たちはこのような試練を通される。しかし、主はいつもともにおられることを忘れてはいけない（「見よ。わたしは…いつも、あなたがたとともにいます」マタイ２８：２０）。

Ⅱ 試練を「この上もない喜びと思いなさい」：２。

　この「思いなさい」の原語は、「と思う、見なす」の意。英訳：deem、count。無理をして喜ぶのではなく、内住の聖霊による知性による判断。試練を喜びとみなせる理由。次の事実を御聖霊の教えにより知っているから→①試練は、すべて神の御手にある。「雀の一羽でも、あなたがたの父のお許しなしには地に落ちることはありません」（マタイ１０：２９）。神はすべてのことを支配しておられる全能の方。②神の許された試練には何かの意味、目的がある（偶然に起こるのではない）→ⅰ私たちを主の姿に変え続け「成長を遂げた、完全な者と」なる為の愛による訓練→ヤコ１：４。ⅱ気が緩み、誘惑により堕落しやすい私たちを矯正する為。ⅲ神とみことばにもっと渇き、求めるようになる為。ⅳ将来の働きに備えさせる為。私たちが信用できるか確かめられる。将来の重大な働きの為につらい経験を通らせ私たちを整えられる。ヨセフ、モーセ、ダビデも。パウロは一生涯が試練の連続だったようである。しかし彼は主にあって試練の中で満ち足りていた。ピリ４：１１。ⅴ信仰の純化の為。信仰の本質に属さない不純なものを取り除く為の試練。周囲の状況が全く絶望的な時でさえ、神に信頼する信仰を養う為。「望みえないときに望みを抱いて信じました」ローマ４：１８。ⅵ「信仰がためされると忍耐が生じる」ことを知っているから。ヤコ１：３。忍耐とは、失望させられるような状況の中でも前進し、活動できる徳。忍耐の原語は、「逃げ出さずに留まる」の意。神が置かれた所から逃げずに留まり（脱出すべき時もある）、やけになったり、きれたり、神を逆恨みせず、そこにおられる主にとどまり、拠り頼み、学ぶべき霊的学科を学び、主と共に歩む。私たちは、生まれながらに忍耐深い者ではない。一瞬のうちに、すべてが与えられる事を願う。与えられないと苛立ち、不平を言う。忍耐がない。最も大切な資質は、物事が自分の思うように進まなくても前向きに生きることができる忍耐。私たちは「神は私にとって何が最善であるかを知っておられる。その神に信頼し続けよう」と自分に語り掛けよう。「たとい私は死に渡されても、神に信頼し続けよう」と語り掛け告白しよう。それこそが、ヤコ１：４の「その忍耐を完全に働かせなさい」の実践。互いにも励まし合おう。試練の中で共に神を見上げて。信仰が強められ、完全なものとされるのは、私たちが試練に遭遇し、試みられている時。究極的には私たちの益となる場合の他は試練に会わない。これらⅰ～ⅵの霊的な事実を思い起こし神の前に静まろう。そうし続ける時、助け主なる聖霊は、試練の価値を私たちに深く教えられ、「さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい（霊的な判断力で見なしなさい）」：２の御言葉を実行できる者に私たちを変え続けて下さる。「それは人にはできないことです。しかし、神にはどんなことでもできます」マタイ１９：２６